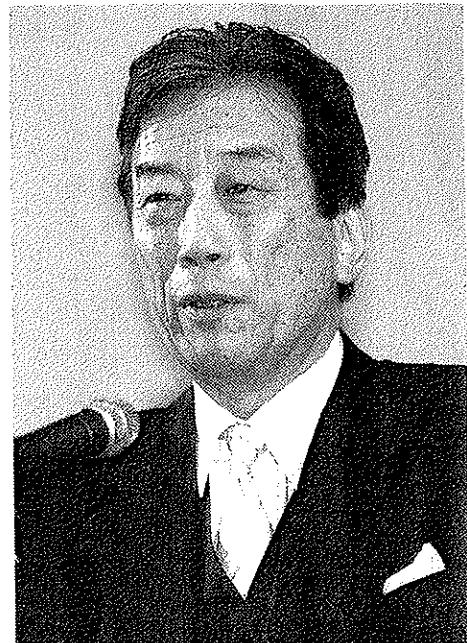


## 基調講演

## 地球温暖化、環境技術、そして日本



政策研究大学院大学教授  
内閣府特別顧問

黒川 清氏

シフォード大学の学生がグーグルを創業したのは九七年ですが、最初の一年は資金がなくて困っていたんです。翌年ようやく投資する人が出てきて、わずか十年で二十兆円産業に成長しました。

昨年、シリコンバレーではクリーンエネルギー関係のベンチャーに四千億円の資金が投資されました。その前の年は一千億円です。今、みんなが欲しがっていて、大きな市場になり得るのは環境技術やアイデアです。

に、相変わらず同じパートナーでやっている。産業構造を変える、地方の雇用を変える。それは政治の意志も重要ですが、チャンスをとらえて考え、動かしていくのはビジネスです。

森林も長期計画で再生、木くずはエネルギーに利用すれば、地方の産業構造が変わり、農水省の役割も今とは全

く違ってくるでしょう。不可能だと思つていては最初から何もできません。できない理由を挙げるのではなく、どうしたらできるかを考えるべきです。シリコンバレーには高い目標を持つ「桟をはずれた」人たちがいる。

## 新しいビジネスモデルつくる

わろうとしています。大量生産大量消費に支えられた産業構造の終焉（しゅうえん）です。本当は一九六〇年代の公害問題や七三年のオイル

ショックの時に兆しあつた。考えた。さらに翌九二年には、変わった人たちです。その時もの、東西冷戦構造の枠組みがあつたため、世界的に環境問題が大きな政治的議題になりました。ななかなかなかったのです。

では九一年に冷戦の構造が崩れたとき、日本は何を考えたでしょうか。少なくとも米次々に立ち上げました。スタ

日本は昨年、独ハイリゲンダム・サミットで、二〇五〇年までに温暖化ガスの排出を半分にしようと提案しました。私は、それまでにはエネルギーも食料も輸出できるようになる、というくらいの大きなビジョンで産業構造を転換する発想が必要だと考えていました。日本は食料もエネルギー資源も輸入に頼っています。それが、例えば米をもつと生産して、残った茎をバイオ燃料にすればいい。現に今、その研究も盛んに行われています。

日本が抱える一番の問題は、なかなか変わらないこと。社会の仕組みや制度が実情に合わなくなっているの